

| 学校経営方針(中期経営目標) | | 前年度の成果と課題 | | 本年度学校経営の重点 (短期経営目標) | |
|---|--|---|---|--|--|
| 教育目標「ふるさとを愛し 多様な人とつながりながら学び 探究し続け子どもの育成」 目指す子ども像 1 主体的に学び続ける子ども 2 人を思いやり仲間と共に高め合える子ども 3 粘り強く挑戦し続ける子ども | | ○「お互いを認め合う」学級づくりを進めることにより、自分の得意なことで力を発揮でき、自分の居場所を感じる事ができた。 ○子どもが学習や行事の取組など、主体的に取り組めるように指導を工夫し、自分で振り返り、調整しながら進められた。 △学習の場面では、人と交流する・関わる良さを感じさせ、問題解決する力を伸ばす。 △探究的な学びとなる授業について、研修を深める。 | | 目指す子ども像を具現化する重点 1 自ら考え判断し、行動・表現する力を向上させる。 2 自らの時間と力を周りの人のためにも使い、他者に貢献する意欲と態度を育てる。 3 自らの目標を設定し、自分で調整しながら根気強く力を育てる。 4 保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。 | |
| 評価項目 | 重点目標 | 具体的方策 | 成果と課題 (自己評価) | 学校関係者評価 | |
| 学校教育指導の重点 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重宝等を基盤として | 1 目標を明確にしたうえで、児童に理解させるために有効な指導方法を工夫する。 | 1 人と関わりながら学ぶことを継続し、主体的に自分が授業に参加できる授業を研究していく。人と関わりと「よくわかる」と実感できるよう課題解決に結びつける。 | ○ペアやグループで学習する場面を設定し、自分の考えを持ち、友達の意見も取り入れて課題解決につなげた。授業後の振り返りでは、友達と関わることの良さを感じており、主体的に友達と関わる事ができた。 | ・1 学期よりも落ち着いて授業に向かっていた。着実に成果が表れている。 ・いろいろな形態の授業があるが、いずれも思考過程を書く・話す活動が大切である。 ・自分で課題が見つけれられるように、何に注目して考えるとよいかを示し、授業を工夫してほしい。 ・自分で課題を見つけて追究し、探っていく家庭学習が必要である。 ・教師が一人一人の状況を把握するのは難しいので、ICT、AI ドリルの活用もよい。 ・AI に頼る部分と頼らない部分の融合が大切である。AI ばかりにならないようにしてほしい。 | |
| | 2 探究的な学びのある授業の研修を行い授業デザインのイメージを持つ。 | 2 探究的な学びが構成しやすい教科や単元での授業デザインの見通しを持つ。「なぜだろう」と思ったことを課題にして問題解決する過程、整理、分析して次の授業に結びつける。学年での教材研究の仕方や各学級の実践を発信する。情報収集の場面で、長岡小児童との交流を積極的に取り入れる。 3 意見の交流や調べたことのまとめ下書きなど、ICTを活用する。アプリを活用したドリル学習を取り入れながら、基礎の定着につなげる。テストパークも部分的に導入し、今まで通りノートに写すこと、紙のテストをすることと比較し、検証していく。 | ○夏季休業中の峰山学園の研修、校内研修により、探究的な学びにするために大切なことが整理できた、さらに、授業研究を行い、学年での教材研究が深まった。 ○長岡小学校との交流学习の場面で、自分たちの課題についての意見や資料を収集し、学習に活かす事ができた。 △「なぜだろう」と児童が思えるようなめあての提示や、働きかけなど、単元の導入を大切にしている。 ○情報共有するのに ICT が有効活用できた。学習のまとめに写真を取り込むなど、自分が伝えたい内容をより深く考えられた。 ○高学年では、アプリを活用したドリル学習か、ノートを使うかを児童が自分で決めて使い分け、自分がやりやすい方法を見つけていた。 △テストパークの良さは、自分の学びが記録されているので、それを活用した学び方を研究する。 | | |

| | | | | |
|--------------|---|--|--|---|
| <p>生徒指導</p> | <p>1 いじめ防止・不登校未然防止となる取組を進める。</p> <p>2 自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場を取り入れ、安心・安全な居場所とし、互いを認め合う集団をつくる。</p> | <p>1 道徳や特別活動等を通して、自分の思いを伝えたり、友達の意見を受け入れたりして、望ましい人間関係をつくり、いじめを生まない雰囲気醸成する。</p> <p>2 不登校を未然防止するためにも、居心地の良い学級・学校をめざし、児童同士の関係づくりや、児童と担任の信頼関係を築く。学校適正配置に向け、長岡小との交流学習を行い、不安を和らげる。</p> <p>3 互いの個性や価値観の違いを認め、自分の得意なことを実感させ、違いがあるから友達と関わる意義があることを指導する。「今の自分」に自信を持ち、さらに良さを伸ばす意欲が持てるように指導する。</p> <p>4 学級活動や異年齢集団での活動における、行動価値として、他者貢献の視点を常に伝え積み重ねていく。</p> | <p>○「居場所がある」と思える学校・学級づくりに努め、何でも話せる雰囲気醸成し、困ったことを担任や友達に伝えると解決できる体験を重ねた。</p> <p>○人とのちがいに刺激を受けたり、補い合ったりして、自分とはちがう強みを持った友達と折り合いをつけながら関わることができた。</p> <p>○長岡小学校との交流学習を学期に1回行った。発表形式で一緒に活動するなど、来年の学年の様子をイメージすることができた。</p> <p>○異年齢活動や学級での活動において、相手のことを考えながら人のために活動をして「やってよかった」と思える取組ができた。</p> <p>△自分の感情に任せ、相手のことを考えない言動がある。その都度、自分の行動を振り返り指導を続けていく。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・長岡小学校との交流学習により、学校間のつながりができた。新たなスタートの基盤となる。 ・6年生が一生懸命頑張る姿を下級生が見て、自分達も下の学年と関わる活動があるのが良い。 ・自分の力を周りの人のために使い、自分は人の役に立っていると思えるようにしてほしい。 ・社会に出てから大切なことに重点をおき、児童にも考えさせてほしい。 ・自分の得意を実感させると自分に自信を持つようになるのではないかな。 |
| <p>健康・安全</p> | <p>1 積極的な児童への指導、保護者への啓発により、自分自身の心身に関心を持たせる。</p> <p>2 自分で目標を設定し、困難なことに粘り強く挑戦しようという意欲を高める。</p> | <p>1 健康安全部が中心となり、各学期1回の保健指導や「まけんだより」の発行により、感染症予防や睡眠、メディアコントロール等、自分でコントロールできる力を伸ばす。</p> <p>2 学習・取組において、個々の目指す目標を設定する力を身につけ、目標に向かって取り組み、振り返ることを繰り返しながら、「前よりも成長した」という小さな成長を実感させ意欲を高める。</p> | <p>○保健だよりや保健室前掲示板を使って、保健指導を行った。特に掲示物はクイズ形式や体験できるなど工夫を凝らし、楽しく学ぶことができた。</p> <p>△生活習慣、メディアコントロールなど、自分でコントロールする力をつけるため、保健指導と日々の声掛けを継続する。</p> <p>○目標に向かって取り組み、活動→振り返り→改善を繰り返す、前の自分と比べることにより、自分の成長を実感できることが増えた。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理能力の弱さを感じるので、指導を続けてほしい。 ・自分でコントロールできるように「なぜ必要なのか」を考えさせ、教師がどのように関わるとよいか工夫してほしい。 ・「目標を達成しなくても成長している」と評価しているのが良い。あきらめずに挑戦する姿勢を育ててほしい。 |

| | | | | |
|---------------|---|--|---|---|
| 特別支援教育 | <p>1 特別支援教育についての理解を深める。(児童・教職員)</p> <p>2 支援を要する児童を中心に、すべての児童に対して合理的な配慮を心がけ、適切な支援を行う。</p> | <p>1 特別支援学級や通級指導教室について、児童の実態や指導方法についての研修を行い、教職員のアセスメント力を伸ばしながら、通常学級に在籍する児童への支援についての力量を高める。全教員を対象に特別支援学級の参観を行い、児童の発達の把握と支援の仕方を学ぶ機会とする。</p> <p>2 スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザー、与謝の海地域支援センターと連携し、専門的な助言を得る。個に応じた支援については、保護者と方向性を確認しながら進める。</p> | <p>○自分のペースで進めたり、やりやすい方法で取り組んだりする様子を受け入れ、児童理解につながった。</p> <p>○特別支援学級の授業研究を行うことにより、児童実態を把握するとともに、個別の課題に応じた支援の仕方を学び、通常級の指導にも取り入れられた。</p> <p>○スクールカウンセラー、まなび生活アドバイザーから、児童実態に合わせた支援の仕方を助言してもらい実践できた。</p> <p>△今後も児童の状況を把握し、支援しすぎない適切な支援になっているかどうかを確認しながら進める。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ちがいを強みととらえて、多様性を認めて、それぞれが力を発揮できるようにすることが大事である。 ・少人数の学級で、個に応じた速さや内容になっていた。共にがんばる雰囲気があった。 |
| 開かれた学校づくり | 1 学校や児童の様子を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。 | <p>1 学校だよりや学級通信、ホームページを活用して学校や児童の様子等を発信して理解を得る。そのために、取組の目的や方法をわかりやすく伝える工夫をする。長岡小との交流について発信していく。</p> <p>2 校区探検や地域にある施設や事業所等の見学を行い、校区・峰山町のことについて学ぶとともに、地域人材や学校支援ボランティアを活用して地域の方とのつながりを広げる。</p> | <p>○学校便りやホームページで学校の様子を発信した。長岡小学校との交流学習や外部の方を招いての学習については、目的が伝わるよう工夫した。</p> <p>○見学を通して、校区や峰山町にある魅力あるものを知り、触れることで、普段意識していなかったことに気づききっかけとなった。</p> <p>○「いさなごっ子見守り隊」・学校支援ボランティアの方々にご協力いただき、児童は安心して学校生活を送ることができ、自分の力を発揮できた。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人は、学校便りが回覧で回ってくるのをとても楽しみにしておられる。写真等で学校の様子を伝えてほしい。 ・発信が弱いという意見もあるので、ホームページの投稿回数を増やす。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・長岡小、いさなご小のそれぞれの良さを引き継ぎ、融合させながら新生いさなご小学校を創っていく。 ・人とのちがいを自分の強みと、自分とちがう人の強みを掛け合わせて、大きな力に変えていく。 ・自分で考え、児童主体となる学習や特別活動を連動させ、安心して過ごせる学級集団づくり、学年集団づくりを重点的に進める。 ・スクールカウンセラー、まなび生活アドバイザーなどの外部機関と連携し、個別に適切な支援を行う。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分で考えるヒントを学校・保護者がどのように与えるかが大事である。 | |